

平成 27 年度
第 5 期中原区区民会議 第 8 回課題調査部会

日時 平成27年12月 2 日（水） 10：30～

場所 中原区役所 5 階 5 0 3 会議室

第5期中原区区民会議第8回課題調査部会 摘録

- 1 開催日時：平成27年12月2日（水）午前10:30～
- 2 場 所：中原区役所5階503会議室
- 3 出席者：成田部会長、反町副部会長、梅原委員、梶川委員、田中委員、長尾委員、仲
亀委員、山崎委員、松本委員【委員9名】（欠席者なし）

（事務局）小野副区長、鈴木企画課長、江口係長、西山職員【企画課】
村田担当課長【危機管理担当】
岩下氏【コンサルタント（㈱カイト）】

4 議題等

- ・会議録確認委員の選任
- ・議題 検討テーマ「地域コミュニティ、みんなで育てる交通マナー ～歩きやすいま
ちに～」に関する調査検討について

5 傍聴者 なし

6 会議内容

- ・会議録確認委員の選任
会議録確認委員の選任について、第8回部会会議録確認委員は松本委員を選任。
- ・審議テーマ「地域コミュニティ、みんなで育てる交通マナー ～歩きやすいま
ちに～」に関する調査検討について

（進行：岩下氏（コンサルタント（㈱カイト））

まず、資料1に基づき、審議の内容・進め方、スケジュール予定等について説明がなされ、続いて資料2-1、2-2及び参考資料2に基づき、これまでの会議での議論や委員から提出された意見を踏まえた上での、取組提案等まとめが示された。

【意見交換】

梅原委員 資料2-1にある取組案の①から③までの記載の順番だが、これまでの議論から考えると、②、③、①の記載順として、よいのではないか。前回の部会の検討の際、ベビーカーは軽車両ではなく手荷物扱いといった確認をしたので、テーマの対象の規模の大きさからいくと、自転車を中心とするべきである。そう考えると、ベビーカーについての提案は、順番として最後に持ってくるのが適当ではないか。ベビーカーに関する提案は、キャンペーンなどの中に、1つの対象として入れた方がよい。

また、取組②「交通ルール・マナーの学習機会の強化・拡大」についても、最初に「スクエアドストレート方式の交通安全教室の拡大」、次に「啓発機会の拡大」となっているが、「啓発機会の拡大」の1つの手法として、「スクエアドストレート方式の交通安全教室の拡大」があるのではないか。スクエアドストレート方式の交通安全教室については、1回実施するにつき25万円ほどかかるため、こ

の費用はどのように捻出するのか、気がかりである。

また、資料2-2の取組③『みんなで育てる交通マナー』キャンペーン・イベントの開催について、今後の課題として「協力団体への依頼」を挙げているが、交通安全協会など様々な団体がある。自転車販売業者などにも依頼していくのかどうか考えなければならない。

コンサルタント スケアードストレート方式の交通安全教室については、回数を増やすという考え方だけではなく、もう少し広い場所を確保し、参加者の枠を増やす考え方もできる。これまでは主に小・中・高校で開催してきたが、参加者について学校関係者だけではなく一般の方にも拡大していく方向性も挙げられる。

提案の掲載順については、これまでの議論の経緯から、一番アピールしたいものを最初にもってくるという考え方もある。

梅原委員 取組②が最も大きな取組だと思う。そのあと、取組③のキャンペーン・イベントも外せない。

コンサルタント 現時点では、資料上、短期・長期という時間軸での分け方をさせていただいているが、優先度や取り組やすさを重視した提示の仕方も考えられる。担い手などについては、これまで検討してこなかったがいかがか。例えばボーイスカウトに、イベントに参加・協力していただくことは可能か。区民祭などにも参加していると伺っている。

梅原委員 ボーイスカウトでは「自転車運転免許証」を取得しなければ、集会などには自転車で来てはいけない仕組みとしている。この「免許証」は自動車の運転免許証と同じように作っており、子どもたちにも人気がある。これを取得するには、警察を講師として呼び出した自転車の交通ルールの講義を受け、校庭につくったコースで実習をし、年齢別の隊ごとに年代に合わせた自転車の整備などの実演を学んで、これらを全て習得できたら証明書をもたらえるという仕組みになっている。

仮に「中原区版自転車安全運転者証」の取組を進めるのであれば、権威づけが重要だ。一度講習会に来たら、参加者に全て配るといような形であれば、権威がつかないし、人気も出ない。

松本委員 私はスケアードストレート方式の交通安全教室を2回ほど見たことがある。小学校の校庭が会場で、PTA関係者や地域の子ども会役員などを招いて週末に行ったものだった。西中原中学校は他の中学校の3倍ほどもある特に大きな校庭を持っているので、かなり大きな人数をお呼びすることができると思う。こういった広い会場で開催して、区民会議のメンバーを含めて、できるだけ多くの区民に参加いただいた中で実施すれば効果がある。交通事故の怖さを知っていただくいい機会となるだろう。

中原区まちづくり推進委員会では「自転車と共生するまちづくり」として、もう十数年以上前から取り組み、武蔵小杉駅や丸子地区を中心に活動をしてきた。最近、放置自転車の問題はかなり改善されたが、かつては、小杉のあるスーパーマーケット周辺には多くの自転車が放置されていて、駐輪防止のためのフラワーポットを設置することなどで、少しずつ改善されてきた。また、駐輪禁止を呼びかけるための

パンフレットを作成し、丸子地区の商店街で配布する活動もしてきた。さらに、交通安全対策協議会、交対協とも言われるが、これらの団体などとも一緒に活動ができるとういのではないか。

また、啓発物については、中原区まちづくり推進委員会が“マナー・モラルアップ事業”として、夏休みに区内の小学校に働きかけ、交通ルール・マナーのポスター作品を募集し、表彰する活動を長年続けて来た。中には、自転車や交通問題に関する作品もある。小学校1年生が描いたインパクトのある作品などもある。昨年度は募集をせず、これまでの入選作品集の冊子をつくっており、画像データになっているので、この作品をいくつか掲示するなど活用もできそう。毎年区内の学校をまわってお願いしていたので、大量の作品データがある。その中から一部を活用するなどして、ポスター、掲示物にできると思う。

また、区民会議から新たに、自転車の交通ルール・マナーをテーマにした作品募集を区内の小中学校などに呼びかけてもよい。区民会議から依頼すれば、各学校の校長先生なども協力いただけるのではないか。

コンサルタント これまでの御発言において、いくつか提案へのヒントをいただいた。

ステアードストレート方式の交通安全教室は、大きな会場で週末に開催すればより多くの区民が参加できること、また、中原区まちづくり推進委員会では、過去にマナーなどのポスターの作品募集をしており、その児童作品を活用するなどである。区民会議として働きかければより多くの作品が集められるかもしれない。夏休みを募集期間とすればよいとも考えられる。

梅原委員 例えば、川崎信用金庫は子どもたちの作品を題材にしたカレンダーを毎年作成して配布している。同じような形でやるのもよいのではないか。コンテスト形式は審査など大変だが、募集自体が啓発活動、キャンペーンになる。

長尾委員 以前、子どもたちに、マナー・モラルアップ事業に関する宿題が出されたことがあったと思う。当時、校長先生が熱心で、全員書いてくるように言われたとのことだった。作品募集の機会があれば、子どもたちも何を書こうかと考えるわけだから、いい啓発の機会になる。

梶川委員 川崎信用金庫のカレンダーでは、絵を描いた児童や小学校の名前も掲載されていて、応募者の励みになっていると思う。ただ随分費用もかかっているのではないか。信用金庫にたくさん置いてあり、持ち帰ることができるようになっていて、私は毎年2部ほどいただいている。市内の名所を子どもたちが描いた、とてもいいものだと思う。

成田部会長 「ジュニア絵画賞」などという名前だったかと思う。市営バスが「ギャラリーバス」として、小学校の作品をたくさん掲示しているバスを走らせることがある。ああいった取組とタイアップできるとよいと思う。募集するにあたっては、標語やテーマの設定が必要ではないか。各取組をつなぐ役割も果たせそうである。

ベビーカーの利用のマナーについては、メインのテーマではなく、中原区の特徴の一つとして入ってくるという形で、テーマとして取り上げる度合いとしては抑えめでよいかと思う。

梶川委員 スケアードストレートなども、実施されている場の周知や、参加できる方法の周知の手法などから、区民が触れる機会を増やしていけるとよい。

田中委員 「社会を明るくする運動」では、大会を毎年開催しているが、その標語を毎年区内の中学生から募集している。手元に資料がないので詳細までは分からないが、毎年、区内の公立校8校、私立校2校に保護司から働きかけて作品募集している。今年は全体で5,000以上の作品が集まっており、その中から入選作品を選んでいく。挨拶運動などが基本だが、素晴らしい作品がたくさん出てきていて、優秀賞、優良賞を各校から2名ずつ選び、さらにその中から最優秀を選び、その作品をその年の標語として採用し、それが区内の町内会掲示板などでも掲示されている。

こうしたコンテストの場もうまく活用すればよいと思う。区長や各地区の代表などが選考に参加しており、表彰式を市民館で開催している。ここでテーマとして難しいかもしれないが、交通ルールを守ることなどが標語として募集できるといいと思う。

少し話がそれるが、子どもは独特の感性で地域を見ていると思う。以前、小学校で地域についてのアンケートを実施したとき、大人が気づかないことも子どもの視点からしっかりと地域を見ていることがあり、正直驚いたものである。平成22年に小学校4年生のある女の子から「煙草が嫌だ」との発言があった。改めて見ると、本当に煙草の吸い殻を道路に捨てる人が多かった。この発言に影響されて、私は家の前の100mほどの道路のごみ拾いをするようになったわけだが、現在まで、毎日平均4本ほどの煙草の吸い殻を拾っている。ひどい人は私が掃除している中、車の中からまだ火のついたタバコを捨ててくる人もいる。

また、ベビーカーの利用については、周囲との関係が大事。私も迷惑に感じることもある。

コンサルタント コンテストや選考などの手法は子どもを主な対象にして、学校などに働きかけるとよいという御意見は皆さん共通である。まちづくり推進委員会、社明運動などでポスターや標語などの選考を行っている例があり、その場を活用したり、テーマとして交通ルール・マナーについての問題を取り上げていただくという方向性も考えられるところである。

仲亀委員 私自身は自転車に全然乗らないので、第三者として見ているだけだが、放置自転車については「ここにいつまであるんだろう」「迷惑だなあ」と思うことがある。夜に無灯火で自転車が走ってきてびっくりしたこともある。知り合いに聞いたところ、「自転車のマナー・ルール」と言われても知らない、と言われしまったこともあった。マナーは一人一人の秩序と言うか、周囲に気を配れるようになるとういことかと思う。

今朝、南武沿線道路を渡るために信号待ちをしていたが、私の右側に止まっていた自転車が信号は赤になったにもかかわらず、私の前の自転車道路を逆方向へ走っていった。若い男性のようだったが、これはルールを外した走行。一人一人が守れば、事故は少なくなっていくと思う。

煙草の吸い殻は我が家の近辺にも多く落ちていたが、最近はほとんど見なくな

った。意識が高まったのか、一軒一軒が掃除しているのか分からないが、以前よりは確かに少なくなった。放置自転車については、近所でも気になるところが1か所ある。

コンサルタント 無灯火などは、違反として認知してもらいやすいが、左側通行などは意識されていない方、知らない方がかなり多いかと思う。

梶川委員 以前は「自転車は左、人は右」とアピールされていたかと思う。最近は聞かなくなった。

梅原委員 マナーについては守らなくても罰則がない。

山崎委員 区民会議の権限でどこまでお願いできるのか、よく分からないところだが、ただ、マナーアップの活動や、コンテストなど既存の活動も多くある。既存の活動に区民会議として協力・支援していくという方向なのかなと思う。働きかけや、実現に向けた計画づくりなどがよいと思う。区民ができることは、お互いに配慮し、ゆずりあう気持ちの醸成である。啓発資料が提案の1番目に来ても私自身はよいと思うし、ポスターやカレンダーなども実現できればよい啓発ツールになると思う。

現役世代の働きかけについては、例えば、スケアードストレート方式の交通安全教室について事業所等を会場に開催するというのはいかがか。区内には大きな事業所がいくつかあるので、協力していただければ、現役世代の方々に見ていただくことで、啓発のよいチャンスになりそうだと思う。

事務局 (危機管理担当) スケアードストレート方式を実施するには、大型車も含め車が3台必要で、この車が時速30~40kmで走行し、事故を実演するというので、最低でも小学校校庭規模の広さが必要である。他の自治体では大きな事業所や教習所などで開催している例もあるようである。広い駐車場などでも可能。等々力緑地の駐車場などでも可能性はあるが、あくまで許可が得られればである。

反町副部長 資料の内容も皆さんの意見とも素晴らしいと思う。梅原委員の指摘のように、提案の掲載順番は結構大切である。これまでの話の流れからするとやはりベビーカーに関する指摘・提案は、最初に掲載する内容ではないと思う。最初にくるとベビーカーに関する取組案が最も重視されている印象を与えてしまうかと思う。ただ、ベビーカーはすぐに活用できる資料があって、中原区に顕著な課題という観点もあるところは外せない。

私が個人的に頑張りたいと思っているのは、自分の得意分野でもあるイベント・キャンペーンの取組である。前回の部会で申し上げたが、地域のイベントに参加しているアーティストの方などに「広報大使」をお願いしてみたい。心当たりも数組あり、依頼をしてみたいと思っており、この広報大使への就任だけなら、あまりお金をかけずにお願ひすることもできそうである。ただ、イベントなどに参加・協力いただいた場合は、交通費+少額のお礼などをその都度お渡しすることが必要である。いずれにしても多額のお金は必要ない。タレントを起用すれば、ファンを含め、より多くの方に取組を周知していく形ができると思う。

キャンペーンについては、サイクルの日でも、二輪の日でもよいので、とりあ

えず決めて展開してみる。自転車関係の業者との連携については、例えば、イベントに協力していただいて、スポンサーになっていただけるとよいと思う。あるいは、難しいかもしれないが、参加者に自転車が当たるような抽選会などができれば、集客に繋がりそうである。交通ルールに関するクイズ大会などの企画もよいと思う。この資料にあるように、後ほど、各取組案を担当する区民会議委員を決めるようだが、私としては、このキャンペーンやイベントについて、担当し、どこまでできるかは分からないが、頑張ってみたいと思う。そのぐらいの気持ちを持っている。

タバコのポイ捨てについてもいくつか御意見が出たが、私も車の窓からのポイ捨てについては、本当に嫌だと感じている。見かけたら、運転手に声をかけてでも注意している。窓から火をつけた吸い殻を捨てるなんてありえない。罰則を厳しくすることも必要だと思う。

コンサルタント 広報大使はやるのであれば、任命式などもして盛り上げたいところである。

反町副部長 ただ、それだけのために呼ぶとギャラが発生してしまう。

コンサルタント スポンサーの話も出たが、企業の協力も得られれば取組全体がより盛り上がると思われる。会場提供などの話題も先ほど出ていたところである。審議テーマも「みんな育てる」となっているので、テーマにも合うのではないかな。

梅原委員 保険会社の肩を持つわけではないが、自転車損害保険に加入していただくことも本当に重要だと思う。多額の補償を請求された事故事例も実際に発生している。私の九州の地元でも実際に発生した事例で、近所の子どもが自転車で坂道でスピードを出して下りていたときに高齢者に衝突し、高齢者が亡くなってしまって、かなり高額な補償金が発生したため、親は自宅を売って、支払ったと聞いている。本当に人生が変わってしまったと思う。保険奨励も強くアピールしたいところある。

長尾委員 私は今日も自転車に乗っていて、怖い目に合ったが、横断の際にお年寄りが横からスーッと出て来てぶつかりそうになった。お年寄りにははっと気が付いて止まってしまい、かえって危ない状況だった。

山崎委員 保険加入者が増えてくれるならそれを扱う業者にとってはメリットになるので、イベントなどにも協力してくれるかもしれない。

梅原委員 保険に入っている軽車両にはステッカーを配る。そのステッカーが貼ってある自転車は駐輪場を優先的に使えるなどの仕組みがあってもよいと思う。

梶川委員 イベントの際には多くの自転車が集まるので、区民祭なども相当数の自転車が集まってくる。パンフレットなども配る機会になると思う。

梅原委員 自転車を使うのは若い世代からお年寄りまで、本当に幅が広いと思う。

成田部会長 イベントは視覚的に訴える効果も高いと思う。先日、なかはら子ども未来フェスタでフロンターレの人形劇を見たが、子どもと一緒に来ていた保護者の方々にもよい発信ができていた。何気なく行ったイベントで、このような啓発に触れる機会がある形がよさそうである。また、イベントで集まった自転車を無償点検し、合格した自転車に点検済シールを配るなど、イベント性のあるものはやはり必要

だと思ふ。

自転車については、放置自転車などこれまでその問題に取り組んできた団体等も含め、そこに今回のルールやマナーを加えて発展させていく。子どもを通じて保護者にアピールしていく。企業にも協力依頼し、連携をしていく。田中委員から紹介のあった「社明運動」の標語ポスターも街中を歩いていて掲示板にあったのを見たことがあり、インパクトがあったと記憶している。啓発力のすごさを毎回感じている。交通のマナーをキーワードに作品などの募集ができれば、一つの成果になるかと思ふ。

田中委員 短い標語などは印象にも残りやすい。

梅原委員 広報資料はどれが一番効果的なのか。パンフレットなどはすぐに捨てられてしまうと思ふ。マグネットは冷蔵庫に貼りつけられれば残るかもしれない。カレンダーもいい。ぜひ作品を募集し、様々な賞をできるだけ多くの子どもに贈呈したいところで、賞はどんどんつくってもいいと思ふ。川崎区の路面表示の例も、以前、この会議で紹介いただいた。

事務局 川崎区の事例は、大師地区の東門前小学校の前の道路上に、子どもたちの作品を活用した路面表示を行っており、新聞記事でも紹介されていたものである。

梅原委員 私の家の近所の例だが、不法駐輪に困っていた場所に「駐輪した方は罰金1万円いただきます」との手作り表示が出て、とたんに無くなった場所もある。

松本委員 インパクトがある。ポスターや標語でも一言、一目で分かるというところがポイント。ドキッとさせるのも一つの手法である。社明運動は挨拶や道徳など様々な活動をしている。啓発も大事な取組である。

ベビーカーのマナーについては、子育てサロンでアピールできるとよさそうである。地区のいこいの家や町内会館をお借りして、イベントができればよいと思ふ。井田のいこいの家の子育てサロンでは、1回75組ほどの親子が集まっていて、やはりベビーカーでいらっしゃる方が多い。ベビーカーや自転車のマナーの啓発資料がそこで配れば効果が高いと思ふ。

また、小学校の交通安全週間が春・夏・秋・歳末とあって、通学路で信号機の無いところなど危険な場所に、町会の皆さんで立って運動のお手伝いをしている。その後には反省会もあり、警察関係者やPTAの方々にも来ていただいている。区民会議がそこにコラボしていくといった、こうした場も活かせるとよい。

この場で最近、通勤・通学の大人のモラルが悪いという意見がよく出ている。かなり急いでいて、信号無視したり、スマホを操作したりヘッドホンをしていたり、といった課題である。小学生は忠実に信号を守り、手をあげている子どもが多い。うまく区民会議として働きかけていきたいところである。

山崎委員 商店街などにも協力依頼ができるとよいと思ふ。ポスターを貼ってもらったり、本屋さんでしおりなどの啓発資料を配ってもらったりということが考えられる。

梅原委員 お店や病院などいろいろなところで啓発ポスターが貼ってもらえるとよいと思ふ。

コンサルタント 一つ目のテーマも二つ目のテーマも「みんな」という言葉を入れたわけだが、

多様な区民がいる中原区で今期の委員の思いであり、様々な団体に積極的に働きかけることが必要である。

梅原委員 ボーイスカウトではスカウトの日という日があり、その日にカントリー作戦と題して、缶拾いなどの活動をしている。キャンペーン的な展開で企業に協力をお願いしており、そうすると例えば大手飲料メーカーの飲物などの提供がある。お願いすれば、そうした商品を提供してくれるところもありそうである。

コンサルタント コンテストなどで、企業名を冠した賞を出すこともある。

梅原委員 応援してくれる企業を募集するのは、ぜひやりたいものである。

- ・各取組の担当委員を検討し、協議の結果、マナー・モラルアップのポスターなど啓発物の取組については松本委員、ベビーカーの利用などのマナー啓発や子育てサロン等への働きかけについては成田委員、イベント・キャンペーンの取組については反町委員が主に担当して検討していくことを決定。

7 その他

12月21日（月）開催の運営部会で本日の審議結果を報告予定。資料内容の調整については、成田部会長と事務局に一任された。

8 閉会

部会長より閉会宣言

以上